

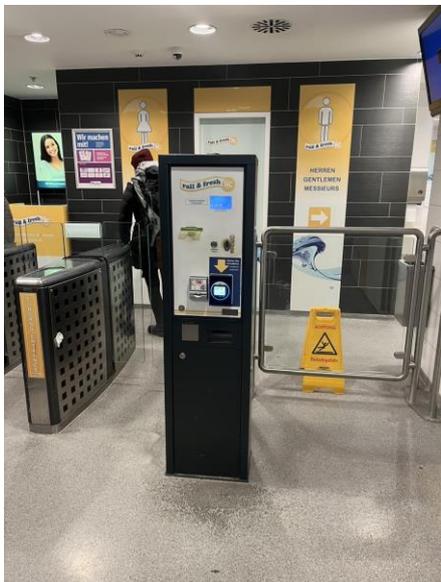
・授業開始

10月後半から授業が始まりました。ドイツ語を、ドイツ語と英語で学ぶ授業が基本であり、難易度はそれほど高くはないと感じます。しかし今まで日本語でドイツ語を学んでいた分、文法用語が英語で出てくると、少し難しいと感じます。また、授業全体をドイツ語で行う授業もあり、そこでは全てを聞き取ることはまだ出来ませんが、頑張ってついていっている状況です。

・交通機関

トリーア大学の学生には、「Deutschland Ticket」というチケットが配られます。このチケットはドイツの新幹線のような「ICE」を除き、ほとんど全ての電車とバスに乗ることができるため、かなり便利なものとなっています。

ドイツの電車は、日本から見るとかなり特殊な方式で動いています。ドイツには改札がなく、切符を購入していない人でも電車に乗れるようになっています。しかし、そういった無賃乗車を防ぐために、不定期に従業員がチケットをもっている持っているかどうか確認しに来て、もし無賃乗車がバレてしまうと、高額な罰金を払わなければならないという方式です。



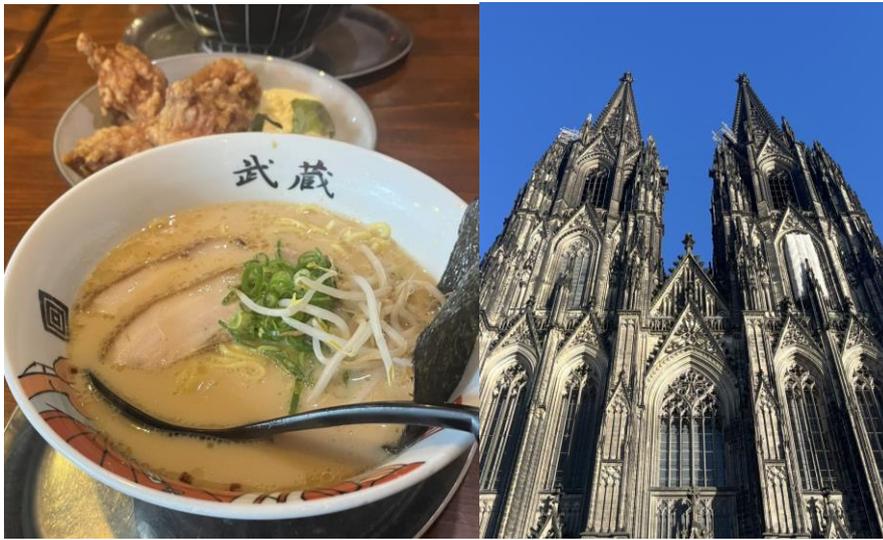
その他にもかなり特殊だと感じるものがあります。その一つが公衆トイレです。ドイツの公衆トイレ、特に駅構内のトイレは基本的に有料で、入るためには50centほどを払わなければなりません。そのため、ドイツに行く予定のある人には、宿でトイレを済ませてから外出することをお勧めします。

(Mannheim 中央駅構内の公衆トイレ)

・国内旅行

チケットのおかげで、国内であれば気軽に電車で移動できるようになっています。今までにドイツ国内で訪れた主要都市は、Düsseldorfや Köln、Heidelbergなどが挙げられます。中でも印象深かったのはやはり、ヨーロッパ最大の日本人街がある Düsseldorf です。ここの通りには日本食レストランや本屋、アジアンスーパー等が集中しており、「Little Tokyo」という別名に恥じないくらい日本を感じることができました。ヨーロッパでは当然の如く日本語話者はマイノリティであるので、外に出ると少なからず疎外感を感じていましたが、Düsseldorfでラーメン屋に

入った時に店員さん全員が日本語で会話しているのを見た時は謎の安心感があったことを記憶しています。



((左) Düsseldorf のラーメン。味はそこそこ。(右) Köln 大聖堂)

・ 国外旅行

ドイツはヨーロッパのほとんど中心に位置しているため、EU 加盟国であれば、どこでも行きやすい場所に位置しています。私はこれまでに、ルクセンブルクとオランダの二カ国を訪れました。特にルクセンブルクは、公共交通機関が無料で、チケットと合わせると実質無料で訪れることができます。現在、ケバブ一つの値段が 7.5€ (約 1200 円) するほど物価が高いドイツで暮らす留学生にとってはかなり訪れやすい国となっています。オランダは、徐々に新鮮な魚料理を口にすることができ、感動しました。また、オランダは自分の想像とのギャップがかなり大きい国でもありました。オランダはある程度大麻に寛容な社会であるため、町や駅ではそういった中毒者で溢れているといった勝手なイメージを持っていました。しかし実際にはそういった雰囲気は全く感じられず、建物はカラフルで活気に満ち溢れている国だという印象を受けました。それに加え、電車の仕様や駅の綺麗さは、東京に近い雰囲気を感じました。



((左) 一つ7.5€のケバブ (右) レンブラント「夜警」アムステルダム国立美術館にて)

・生活について

こちらに来てから、日本が恋しくなったことはほとんどありません。ここでの生活はかなり楽しく、日本での生活よりも充実していると感じます。唯一恋しいと感じるものは、実家の愛犬くらいです。



(家で帰りを待つ愛犬 (ドイツ原産のダックスフント))